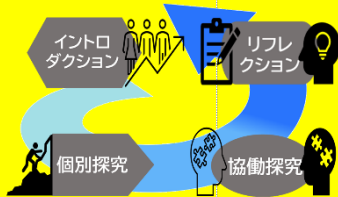


令和8年度平岡南小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号:25511

「学ぶ力」		
実態	成 果(共通指標より)	課 題(共通指標より)
	◇「安心して学習に取り組むことができるように先生方が支えてくれる」「家・地域の 人に支えられている」と感じている児童が多い。 ◇「分からないことがあった時に友達や先生に聞いたり、学習で困っている友達に 声を掛けて一緒に考えようとしたりする意識のある子が多い。	◇自分の意見を進んで発言したり、自分が思っていることや感じていることを人に 伝えようとしたりすること。 ◇自分で計画を立てて学習に取り組むこと。 ◇学習習慣の定着と、読む、書く、計算するなどの基礎基本的な学習の習得。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	◇共通指標から、「自分にはよいところがある」「人のよいところを見付けようとしている」「人の役に立ててうれしいと感じる」「人の役に立つ人間になりたい」について肯 定的な回答をする児童が多い。日々の授業実践における協働的な学びや、縦割り活動、委員会活動などの異学年交流による成果と捉えている。一方、「自分が必要とさ れていると感じる」という項目では、例年、肯定的な回答の割合が8割を切る傾向にある。子ども同士の協働的な学びや、活動後の相互評価の場を設定することが自己 肯定感の高まりにつながると考える。自分に自信をもてるような場の設定や声掛け、価値付けを継続していく。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力		
自ら学びに向かう力「考えたい」「つなげたい」「深めたい」		
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	◇研究主題「考えたい・つなげたい・深めたいを生む授業」の実現 →「 <u>考えたい</u> 」「 <u>つなげたい</u> 」を生む単元構成・教材化 →協働的な学びの中で「 <u>深めたい</u> 」が生まれる教師の関わり ◇学習習慣の定着と、学習の基礎基本的な知識・技能の習得 →学校と家庭との協力(家庭での学習の習慣化) → <u>教科担任制、学年合同授業等の実施と充実</u> ◇子どもの素直な「 <u>やってみたい</u> 」「 <u>どうしてだろうと</u> 」という 思いを出発点にした、 <u>課題を生む授業づくり</u>	◇よりよい生活をつくる活動の充実 → <u>学級会、児童委員会、そよ風活動(縦割り活動)</u> などでの自治的活動 ◇「 <u>本物の経験</u> 」となり得る場の創出 →運動会、学習発表会等での認め合い、励まし合う場の設定 →「 <u>挨拶バトン</u> 」を通してお互いを大切にする心の育成 ◇自分たちの生活を振り返る場の設定 →各行事で <u>振り返りカード等</u> を通した自己評価、相互評価 → <u>学校アンケートの実施</u>
		
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
◇日々の授業において、調べ学習に加え、成果物としてレポートやプレゼンテーションなどを作成し、自分の意見を伝えたり受け取ったりする活動を構成する。 ◇ICT を用いた授業の中で、共同編集、相互参照、相互評価などを取り入れ、仲間のよさや支えを感じたり、より深い探究をしたりすることができるようにする。 ◇宿題等でタブレットを持ち帰り、一斉配信の問題のほか、個人の理解度等に応じた問題に取り組むことができるようにする。		

<本プログラムの実行に向けて>

新年度 ◇本プログラムの共有 ・学校説明会(4月) ・職員会議(5月) ・学級懇談／個人懇談 ・パートナー校間研修	▶	〔一人一人の教職員〕 ◇日常の授業・行事等の教育活動 ◇各自の研修…札教研、年次研修等	↔	〔学校全体〕 ◇校内研修 各ブロックでの授業づくり、校内研修会等 ◇子どもの育ちを共有 職員会議、学年研修、パートナー校、 学校関係者評価委員会等	▶	次年度△ ◇学校評価 ◇学校教育説明会(保護者・地域) ◇成果と課題を共有 ◇校内研修会(3月)
---	--------------	--	--------------	---	--------------	---